



## 県教連の皆様とともに

岩手県教育研究所連盟 会長 佐々木 寛

(岩手県立総合教育センター所長)

新春の候、岩手県教育研究所連盟の皆様におかれましては、本年度の事業推進に御尽力いただいておりますことに心から感謝申し上げます。

県教育研究所連盟は、昭和33年に発足した歴史ある連盟であり、これまで県内各地の教育研究機関が連携を密にし、教育に関する調査・研究を充実させ、本県教育の推進、向上に寄与することを目的として活動して参りました。

昨年9月の研修会では、F R教育臨床研究所所長の花輪敏男先生を講師としてお招きし、「学校と教育支援センターとの連携～F R式不登校対応チャートによる支援を通して～」と題して、不登校児童生徒及び家庭への支援の方法や、学校と教育支援センターとの連携の在り方等についてお話をいただきました。

今年2月に開催される岩手県教育研究発表会では、各市町村教育委員会及び教育研究所から多くの発表の推薦をいただきました。本年度も、昨年度と同様のかたちで、令和7年2月5日(水)、6日(木)、7日(金)の三日間にわたり、対面及び

リアルタイム・オンラインでの開催となります。また、その模様は、開催当日から3月6日(木)にかけて、オンデマンド配信でも御覧いただけます。加盟機関の皆様の御参加をお待ちしております。県内各所からの特色ある取組の発表が、本県教育の充実と発展に繋がりますことを期待しております。

研修会で学んだとおり、各教育支援センターがその役割を適切に果たし、児童生徒と保護者に寄り添った支援を行うことなどをおして、誰一人取り残されない学びを保障することが大切です。それと同時に、子どもたち一人一人がこれからの社会を生き抜き、よりよくするために必要な資質・能力を確実に育んでいくためにも、教育の専門機関としての当連盟各研究所の役割はさらに重要になってくるものと存じます。これからも、研究所相互のますますの連携を図りながら、岩手の教育の推進、向上のために、ともに力を尽くして参りましょう。よろしく願いいたします。

### 令和6年度定期総会・研究協議会の報告

令和6年5月10日(金)、令和6年度岩手県教育研究所連盟定期総会並びに研究協議会を開催いたしました。

総会では、昨年度の事業報告及び決算報告を行い、今年度の役員案、所員研修会、岩手県教育研究発表会等の事業、予算案を承認いただきました。承認いただいた令和6年度の役員は右のとおりです。また、研究協議会では「授業改善・学力向上の現状と課題について」「不登校・適応指導教室の現状と課題について」の二つのグループに分かれて、活発な意見交換が行われました。

会長	佐々木 寛	総合教育センター	所長
理事	佐々木 寿洋	盛岡市教育研究所	所長
	菅野 弘	花巻市教育研究所	所長
	八木 浩司	一関市教育研究所	所長
監事	坂本 大淳	総合教育センター	研修部長
	侘美 淳	紫波町教育研究所	所長
	高橋 雅明	矢巾町教育研究所	所長
事務局	総合教育センター	企画担当	
	菊池 貴彦	主任研修指導主事	
	関向 真介	主任研修指導主事	
	安倍 貴史	主任研修指導主事	
	阿部 尚史	研修指導主事	
	菅原 将成	研修指導主事	

## ■ 令和 6 年度東北・北海道地区教育センター協議会 ■

### ■ 令和 6 年度東北地区教育研究所連盟総会・教育研究発表大会 ■

令和6年10月31日(木)～11月1日(金)、コラッセふくしまを会場に、全国教育研究所連盟委員長並びに福島県教育委員会教育長を御来賓に迎え、開催されました。センター協議会では、管理運営、研究研修事業協議会、及び共通研究主題による研修会が行われました。共通研究主題による研修会では、学習指導、生徒指導、情報教育の三つの研究について話題が提供され、協議しました。東北教連教育研究発表会では、教科部会において、岩手県立総合教育センターの田口一茂主任研修指導主事が「児童が自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する授業の在り方に関する研究—問題解決の活動の充実を通して—」と題して、また、情報教育部会において、加藤佳昭研修指導主事が「生成AI・デジタルファブ리케이션を活用した授業に関する研究について」と題して発表を行いました。両会合には、加盟の7道県、7市から123名が参加し、充実した研究協議会となりました。

#### 【 管理運営協議会・研究研修協議会協議題 】(本県提案分)

- 管理運営 ○ 教員の研修受講履歴記録システムおよび研修プラットフォームの活用について(成果と課題)
- 研究研修事業 ○ 教師の新たな学びを目指した「研修観の転換」に係る、各センターの研修の在り方について

#### 【 共通研究主題 】

- 学習指導 ○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による授業改善(秋田県)
- 生徒指導 ○ 一人一人の成長を促すためのチーム学校での教育相談—教育相談コーディネーターを軸とした教育相談の実践を通して—(福島県)
- 情報教育 ○ 教育DXの戦略的展開を目指して—市町村教育委員会や学校との連携を通して—(宮城県)

#### 【 教育研究発表テーマ 】

- 教科 ○ 児童が自然の事物・現象についての問題を科学的に解決する授業の在り方に関する研究—問題解決の活動の充実を通して—(岩手県)
- ICT利活用による学校教育の質の高まりに関する研究(山形県)
- 教科外 ○ 不登校生徒への支援～「こころの教育相談センター」の運営を通して～(青森県)
- OJTの活性化に関する研究(山形県)
- 情報教育 ○ 青森県におけるICTを活用した確かな学力向上を目指した取組 Stage2(青森県)
- 生成AI・デジタルファブ리케이션を活用した授業に関する研究について(岩手県)

## ■ 令和 6 年度全国教育研究所連盟研究協議会 ■

令和6年10月24日(木)～25日(金)、福井県教育総合研究所主管のもと、福井市で開催されました。福井県教育総合研究所から「新たな教師の学びを支える教育研究所のイノベーション」と題した基調提案が行われた後、福井大学大学院連合教職開発研究科教授・研究科長 木村 優 先生をお招きし、「教師の学びと育ちの変革に向けた「研修観」の転換と「協創」の実現」と題する基調講演が行われました。次に二つの分科会に分かれ、計四つの提言発表、及びグループ協議が行われました。本県からは、総合教育センターの3名が参加しました。

#### 【 提言発表・グループ協議テーマ 】

- 分科会A 現場ファーストの研修・研究とは
  - 授業におけるICTの活用に関する調査研究～学習場面に応じた1人1台端末の活用を中心として～(富山県)
  - 基礎期から向上期の教師の問題解決をサポートする教育センターの在り方(熊本県)
- 分科会B 教育センター職員が成長するための取組みとは
  - 職場活性化プロジェクトチームの取組について～意識調査と業務可視化ツールを使った現況業務分析による課題の抽出と解決に向けた実践報告～(埼玉県)
  - 自律的に学び、学校と共に高め合う研究所(福井県)

■ 令和 6 年度岩手県教育研究所連盟研修会 ■

〔目的〕 不登校児童生徒及び家庭への支援の方法や、学校と教育支援センターの連携の在り方について具体的に学び、児童生徒に寄り添った不登校対策の推進に生かす。

〔日時〕 令和 6 年 9 月 20 日（金） 13:00～16:05

〔演題〕 学校と教育支援センターとの連携

～ F R 式不登校対応チャートによる支援を通して～

〔講師〕 F R 教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏

花輪先生には、不登校児童生徒及び家庭への支援の方法や、学校と教育支援センターとの連携の在り方について御教示いただきました。長年にわたる豊富な御経験や御見識から、不登校の児童生徒とどう向き合い、どのように導いて行けばよいか、具体的な実践例を交えて御講演いただきました。

(1) 不登校とはどのような状態か

不登校の子供は、たとえば言えばガソリンの少ない自動車である。ガソリンが少なくなった原因は児童生徒によって様々である。したがって、原因別にアプローチすることは非常に難しい。不登校を解決するためには、

- ・ 日常的な生活の中でガソリンを入れること
- ・ 子供と学校を道路でつなぐこと
- ・ 専門的な技術で児童生徒を上手に動かすこと

の三つのポイントがある。

(2) これまでの不登校対応

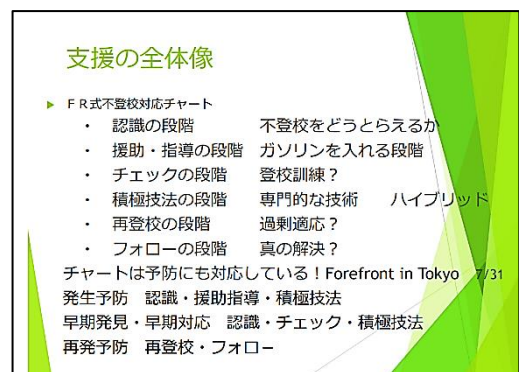
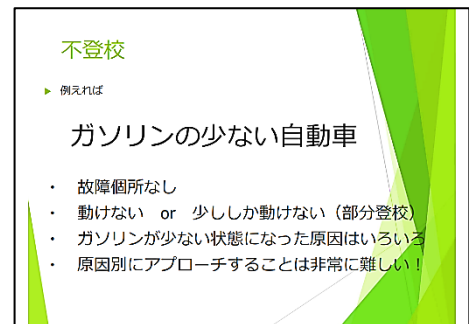
これまで、学校や家庭では、不登校の子供に対して、(優しい表現かもしれないが) 登校を促すことしかやってこなかったのではないか。つまり、登校するという結果のみを目標にしてきたのではないか。これは、ガソリンを入れずにただ動かそうとしてきたと言えるのではないか。また、専門機関や専門家は、ガソリンを入れてはきたが、子供を積極的に動かそう、子供と学校を道路でつなごうとしてこなかった。そこで、学校復帰までの中間的な存在である教育支援センターに求められるのは、子供に十分ガソリンを入れ、子供と学校を道路でつなぐ「発射台」としての役割である。ただ居心地のよい「オアシス」では不十分だ。ある相談学級では、いじめがきっかけで不登校になった子供が、その体験をセリフに起こし「告白劇」をした。いじめにあった当時の自分の思いや、やりたかったこと、実際にしたこと、また、当時の自分を振り返って今思うことなどを理解し、他者に伝えながら、「自己理解」と「自己開示」をしていった。そうすることで、セリフづくりがカウンセリングそのものとなり、徐々に学校への道路が繋がっていった。

(3) これからの不登校対応

F R 式不登校対応チャートは、支援の全体像を、

- ・ 認識の段階 (不登校をどうとらえるか)
- ・ 援助・指導の段階 (ガソリンを入れる段階)
- ・ チェックの段階 (登校訓練?)
- ・ 積極技法の段階 (専門的な技術 ハイブリッド)
- ・ 再登校の段階 (過剰適応?)
- ・ フォローの段階 (真の解決?)

の五つの段階で捉える。認識の段階では、不登校をポジティブな見方で捉え、本人に伝える。これだけでも登校につながる場合がある。次に、援助・指導の段階では、ガソリンを入れる。ガソリンにあたるものは一人一人違うので、学校・家庭や専門機関で見つけていかなければならない。ただし、専門機関と直接かかわることができる例は少ないので大多数は家庭の中でガソリンを入れていかねばならない状態にある。ここは家庭に対する学校からの助言が必要である。チェックの段階では、外出する傾向があるか、生活のリズムが整ってきているか、家で退屈していないか、また、気持ちが学校に向かっているかを確認しながら、登校する後押しをしてよいか判断する。積極技法の段階では、専門的な技術(裏技)が必要である。子供の心理面のみならず、学力・体力の補充、学校側の受け入れ態勢の整備にも取り組む。この段階は、人間関係を核にしながらかつスモール・ステップで行う。再登校の段階では、過剰適応の危険性に考慮し、場合によってはブレーキをかける必要がある。最後に、フォローの段階では、自分で考え、決定し、自分の足で歩む状態(真の解決)になっているか確認する。不登校の解決には、情熱、誠意そして技術が大切である。





**令和 6 年度（第 68 回）岩手県教育研究発表会**

令和 7 年 2 月 5 日（水）から 3 月 6 日（木）の期間で、岩手県教育研究発表会を開催します。今年度も対面、リアルタイム・オンライン、オンデマンドの三つの実施形態を組み合わせた発表会となります。メインテーマ「夢の実現に向けて自ら学び行動する岩手の子ども」、サブテーマを「一指導と評価の一体化で育成する確かな学カ―」と設定し、講演を行うほか、教科・領域等に関わる分科会を設置します。多くの方々の御参加をお待ちしております。

**2 月 5 日（水） 岩手県立総合教育センター 岩手県立生涯学習センター**

【分科会】＜対面及びリアルタイム・オンライン＞

国語 体育／保健体育 外国語活動／外国語 理科  
教育課程一般 いわての復興教育「いきる・かかわる・そなえる」

**2 月 6 日（木） 岩手県立総合教育センター 岩手県立生涯学習推進センター**

【講演】＜対面及びリアルタイム・オンライン＞

演題：「主体的・対話的で深い学び」を改めて考える―「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実―

講師：文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田村 学 氏

【特設分科会】＜対面及びリアルタイム・オンライン＞

1 学力向上 2 生徒指導 3 教育の情報化 4 ふるさとの学び

**2 月 7 日（金） 岩手県立総合教育センター 岩手県立生涯学習推進センター**

※特別の教科 道徳は花巻温泉ホテル花巻

【分科会】＜対面及びリアルタイム・オンライン(一部対面のみ)＞

社会／地理歴史・公民 算数／数学 音楽 図画工作／美術 家庭／技術・家庭 領域等  
幼児教育／幼小接続 教育相談 特別支援教育 特別の教科 道徳

**2 月 5 日（水）～2 月 7 日（金）企画展**

学校紹介写真展＜会場展示・Web ページ掲載＞ 学生科学賞入賞作品展・理科教材展＜会場展示＞  
教材展〔特別支援教育〕＜オンデマンド＞ 学校公開資料展＜Web ページ掲載＞  
教職大学院展＜オンデマンド＞

**2 月 5 日（水）～3 月 6 日（木）＜オンデマンド視聴期間＞**

【講演】【特設分科会】【分科会】 ※一部分科会を除く

- ・対面（参加者が会場に集合する）
- ・リアルタイム・オンライン（参加者が YouTube の同時配信を視聴する）
- ・オンデマンド（参加者が YouTube で随時視聴する）

※開催要項及び参加申込方法の詳細は、[総合教育センターWeb ページ](#)（「教育研究発表会」のページ）に掲載しております。

**総合教育センターをご活用ください**

総合教育センターでは、要請研修、随時研修、どようび研修など様々なニーズに対応しています。詳細については各担当までお問い合わせください。

**企画担当 0198-27-2833**

教育図書・資料の収集・提供、カリキュラム・マネジメント、いわての復興教育に関する内容

**教科領域教育担当 0198-27-2735**

幼児教育から小学校・中学校・高等学校の教科・領域等の指導に関する内容

**理科教育担当 0198-27-2742**

小学校・中学校・高等学校の理科の指導に関する内容

**情報・産業教育担当 0198-27-2254**

情報教育、視聴覚教育、技術・家庭科、高校専門教育に関する内容

**教育支援相談担当 0198-27-2821**

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における個別又は集団の教育支援に関する内容

[センターWeb ページ](#)では、教育研究、学習指導案、研修講座関連資料等各種教育情報を提供しています。

☞下線のある箇所をクリックすると、Web ページに接続できます。